

校友会会報

No. 27



酪農学園大学同窓会校友会

2021年1月1日 発行

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町 582 番地 同窓生会館内

TEL (011) 386-1196

FAX (011) 386-5987

E-mail rg-kouyu@rakuno.ac.jp

HP https://kouyukai.rakuno.org

発行 酪農学園大学同窓会校友会

印刷 社会福祉法人 北海道リハビリ

校友会との向き合い方

酪農学園大学同窓会校友会 会長 小山 久一

はじめに

会員の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また日頃から酪農学園大学同窓会校友会（以下、校友会）に対し、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。また、爆発的に拡大した新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響についても何かとご心配をいただき感謝申し上げます。

校友会と新型コロナ

これまでの校友会主催の行事では一人でも多くの大学卒業生に参加してもらえようという考え、少しずつ努力し、皆様のご賛同を得てきました。しかし、突然発生し、爆発的に世界中に蔓延した新型コロナの影響により、校友会の状況は一変してしまいました。これまでの校友会の集まりでは人が多すぎ「三蜜」になりやすいためです。校友会の理事代議員会は書面議決に変更され、ホームカミングデーを始めとする様々な行事は中止または延期となりました。「自粛」という言葉が重く感じられ、さらに「感染するのでは」という思いが、近い将来すら見だしにくくし、さらに校友会への思いを遠ざけてしまいました。このように人と人との繋がりが途絶えがちとなることは誠に残念な思いでいっぱいであります。

酪農学園大学校旗

一方、2020年に酪農学園大学は創立60周年を迎えました。校友会は理事代議員の承認を得、この周年事業に合わせ、予てから竹花一成前学長より要望のあった「酪農学園大学校旗」を大学に寄贈することになりました。校旗はこれまで大学にありませんでしたので、初めての校旗となります。すでにデザインや大きさも大学側と協議、作製し贈呈式が行われました（写真）。この旗には

単なる演壇上の飾り物ではなく、学生にとっては自分の進むべき方向が見える明かりとなり、また同窓生の皆様には酪農学園大学への原点を照らす人生の明かりになってほしいとの願いが込められております。このような願いは現在の不安の蔓延した世の中にあってもこそ心穏やかに自分の進むべき道を見いだすキッカケとなるかもしれません。

今だからこそ校友会

校友会の原点は会員相互の「親睦」にあります。これは設立以来不動のもので何ら変わりはありません。今のように重苦しい雰囲気が漂う生活の中にあっても「親睦」は得られるようです。すでに行っている人もいますが、インターネットを利用した数人の親睦会などはそれに当たります。直接出会うことなく感染の心配もない小さなリモート親睦会ですが、余裕のある楽しい親睦会となることは間違いないようです。早く新型コロナの生活から脱却し、やがて来る新しい生活に校友会が根付くよう願い、併せて校友会会員皆様の輝かしい未来が開かれますことを願ってやみません。



大学校旗贈呈式出席者による記念撮影

■循環農学類「学類の近況」

循環農学類長 井上 誠司

同窓生の皆さまにおかれましては、ご健勝にお過ごしのことと存じます。2020年は本学類にとって発足10年目を迎える節目の年です。こうした記念すべき年なのですが、新型コロナウイルスの影響により入学式が中止となるなど、不安が尽きない中で新年度を迎えることになりました。また、原則として講義が遠隔で開講されるなど、学生も教職員もかつて経験したことのない困難に直面しています。荒波を何とか乗り越えて、今日に至っているといった状況です。

さて、教員の異動について報告しましょう。2020年3月をもって、岡島毅教授（草地・畜産学教育研究室）、玉利和弘教授（理科教育研究室）、發地喜久治教授（食料経済史研究室）の3名が定年退職されました。長年にわたり本学類の教育ならびに運営にご尽力を賜りました3名の先生には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。一方、2020年4月には、志賀聡教授（農業科教育課程研究室）、廣瀬之彦教授（農業科環境教育研究室）、金本吉泰准教授（理科教育研究室）、毛利泰大助教（統計学研究室）の4名が着任されました。フレッシュな毛利先生が仲間入りされていますが、教職課程担当の志賀先生、廣瀬先生、金本先生はいずれもベテランなので、教員の若返りがはかられたとは言えません。とはいえ、高校教員としてのキャリアを積まれた3名の先生が就任され、

より深く学校教育について学ぶ機会を得ることができるようになりました。この点は大きなメリットです。

続いて、新入生と卒業生に焦点を当てましょう。まず新入生ですが、2020年度のその数は261名でした。うち100名が北海道、160名が都府県、1名が国外等の高校出身者となっています。全体の61.3%が都府県からの入学で、この割合は4年連続で拡大しています。北海道の農業、あるいは北海道そのものに憧れて本学類への入学を決意した都府県出身者が増えつつあることがうかがい知れます。

次に卒業生ですが、2019年度のその数は263名で、うち就職された方は237名でした。その就業先は、143名が北海道、94名が都府県となっています。北海道での就職を決断された方の割合は60.3%で、この割合も拡大傾向にあります。また、143名となった同年のその数は過去最高を記録しました。

皆さまご承知のとおり、北海道は農家数の急激な減少とそれに伴う過疎が問題となっています。こうした状況の中、本学類は全国各地から新入生を迎え入れ、入学した学生を農業のエキスパートとして育て上げ、道内各地の農業関連産業や農業団体へ輩出してきました。このような実績を、同窓生の皆さまにも理解いただけると幸甚に存じます。今後とも本学類をよろしく願い申し上げます。



桜が咲く季節になっても、キャンパスが学生でにぎわうことはありませんでした

■食と健康学類「学類の近況」

コロナ禍により大学を含めて大変な世の中になっていますが、食品科学科、食品流通学科ならびに食と健康学類卒業生の皆様お元気ですか。2020年3月の卒業式および卒業記念パーティーが中止になり、当該年度の卒業生（156名うち管理栄養士コース45名）の諸君には寂しい思いをさせてしまいました。教員も最後に彼らを笑顔で送り出すことが出来なかったことは誠に痛恨の極みでありました。このような状況の中でも管理栄養士コースの卒業生諸君は国家試験で奮闘し、見事全員合格を果たしました。2020年度の入学者178名は4月4日に大学に集合するも、体育館に集まったの式典は中止となり、学生証等を交付するのみで解散、その後はリモート授業となり大学に入学しながら大学に来られないという状況が続きました。後期になってようやく一部授業を対面で開始し、この原稿を執筆している10月には少し「大学らしさ」を取り戻しているような状況です。2020年5月1日時点で食と健康学類は681名の学生が在籍しており、困難な状況の中、教員とともに何とか学修を進めています。

教員の異動につきましては2019年度末をもって深澤史樹准教授（食品産業経済学研究室）が北海商科大学に転出され、また2020年9月末には柳京熙教授（流通学研究室）が弘前大学に転出されました。お二人の先生方には新天地でのご活躍を期待しています。



写真1 左から大矢樹さん、松田幸大さん、伊林功太さん

食と健康学類長 金田 勇

この1年間で学生諸君がいくつかの賞を受賞しているので報告します。応用生化学研究室の大矢樹君が令和元年に日本顕微鏡学会北海道支部学術講演会における講演（演題名「筋損傷部位で生じる酸化タンパク質への金コロイド標識と電子顕微鏡観察の試み」）に対して北海道支部長賞が贈られました（写真1）。また2019年12月に大阪で開催された「おいしい減塩レシピコンテスト第4回S-1g（エス・ワン・グランプリ）大会」において栄養教育学研究室のグループが学生部門で見事優勝しました（写真2）。ご指導いただいた先生方もあわせてお喜び申し上げます。

現在カリキュラム改訂が進められており、それに伴い2021年度入学学生よりこれまでの3コース（食品機能科学、食品開発学、食品流通学）を食資源開発学コースと食品流通開発学コースの2コースに再編し、より効果的な教育・研究を推進してゆくことになりました（管理栄養士コースは従来通り）。

教員一同、健康学の発展のために尽力する所存であります。今後とも食と健康学類の教育・研究に格段のご理解とご協力の程よろしくお願い致します。



写真2 受賞の学生と応援に駆け付けたゼミ生、担当教員の杉村留美子准教授

■環境共生学類「学類の近況」

環境共生学類長 中谷 暢丈

環境システム学部ならびに環境共生学類卒業生の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。また常日頃から、環境共生学類における教育研究活動等にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、環境共生学類では2020年3月に6期生123名、9月には5名が社会へと巣立ってゆきました。2020年4月には137名の入学者を迎え入れ、10月1日現在、学類全体として555名の学生が在籍しております。

教員の移動につきましては、2020年4月より金子命さんが期限付助手として着任されました。金子さんは、環境システム学部生命環境学科の6期生として卒業された後本学大学院に進学され、2020年3月酪農学園大学大学院博士課程を修了されてすぐの着任となりました。主に生命環境学コースの実習補助と学類教育全般でのサポートを担当されています。中でも健土健民入門実習の学類企画では「大学キャンパスの緑のガイドラインづくり～緑地管理はなぜ必要か？&樹木の調べ方」における各種資料の作成において、キャンパス内の植物に関する長年の知識を遺憾なく発揮されていました。また、伊藤哲治先生が2020年4月に講師へと昇格されました。4月からの役付者として、星野仏方先生が酪農学研究科長、吉田磨先生が入試広報センター副センター長、吉中厚裕先生が社会連携センター長として大学運営に関わる重責を担われています。

現在パンデミックを引き起こしている新型コロナウイルスに対しては、大学では2020年1月より対応を続けております。学類においても2月の洞爺湖フォーラムに始まり、例年実施している学位記授与式および卒業記念パーティー、入学式式典および新入生合宿オリエンテーションは中止となり、年度明けの大学構内は例年

になく閑散としておりました。

前学期の講義は遠隔授業、演習、実験、実習に関しては感染拡大防止策を最大限講じ、感染リスクをできる限り排除した上での許可制で一部対面授業として実施しました。例えば、2019年6月に78年ぶりに野幌森林公園で確認されたヒグマ等の野生動物対策として「人と野生動物の共存のためのゾーニング管理」の考えの元、「野生動物保全技術実習」において、南縁緑地から本学キャンパス内への野生動物侵入防止のために、回収型電気柵を設置しました（写真）。

そのほか、「水圏・地圏総合実習」では、実習内容の一部変更や人数制限などのコロナ対策を講じることで、遠隔授業では得ることのできない実学教育を展開しました。また、学類独自の卒業論文中間発表や本論発表会も、withコロナで求められる新たな研究発表スタイルとして、大学e-ラーニングやweb配信システムを取り入れた方法を設け実施に向けた準備を進めております。

環境システム学部ならびに環境共生学類の同窓生の皆様におかれましてはご健康に留意され、ますますご活躍されることを祈念申し上げます。環境共生学類の教育研究の充実と発展のため、教職員一同が一丸となって努力してまいります。今後とも、学類の教育、研究に格段のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



野生動物侵入防止のため回収型電気柵を設置する学生

■獣医学類「学類の近況と新たな挑戦」

獣医学類長 樋口 豪紀

同窓生の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より獣医学類の教育、研究ならびにエクステンション活動につきまして、多大なご支援を賜り心よりお礼申し上げます。さて、ここ数年、全国的に大きな自然災害が頻発する中、「今年こそは平穏な年でありますように」との思いで過ごしておりましたが、石川県、長野県および千葉県での大型地震、さらに7月の集中豪雨や大型台風は全国各地に大きな爪痕を残しました。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症ですが、獣医学類でも学生の安全確保と学習環境の整備に学類教員が一丸となって取り組んできました。特に、獣医学類では履修科目のほとんどが必修科目という特殊性もあり、より効果的なりモット講義の実施に向けて様々な工夫を試みてきたところです。幸いにも9月から開始された後学期では、対面での講義・実習も可能な状況となり獣医学類にも少しずつ活気が戻ってきた感がございます。今後、状況がさらに好転し、大学が学生達の笑顔で満ち溢れる日が訪れることを祈るばかりです。

教員異動についてご紹介いたします。2019年度は伴侶動物医療学分野の廉澤教授、感染・病理学分野の福本教授がご退任されております。これまでのご指導に対し深く感謝申し上げます。2020年度の着任ですが、伴侶動物医療学分野に准教授として大田寛先生、衛生・環境分野に助教として福田昭先生が着任されました。今後の学類運営の主軸を担っていただけるものと期待しております。

学生の就職状況についてです。こちらも同窓生の皆様に多大なご支援頂き感謝申し上げます。2019年度は主な就職状況として小動物臨床45名、産業動物臨床27名、公務員獣医師22名、進学3名でした。この他、民間企業や動物園、水族館にも多くの学生が就職しております。

第71回獣医師国家試験（2019年度）の合格率は82.9%でした。厳しい数字となりましたが、

本年度は新たな学習環境の整備を行い合格率向上のため、学類としてさらなる努力を行なって行く所存でございます。

本文タイトルにもございます通り、現在、獣医学類は欧州獣医学教育認証（EAEVE）の取得に向けて準備を進めております。国内外において獣医学や獣医師に対する社会的ニーズが多様化・高度化する中で、教育の質保証は本学においても大きな課題となっています。EAEVEが世界各国で採用されていることから分かるように、画一的な教育内容を基準としたものではなく、その国にあった、またその大学の特徴を十分に生かした教育システムを構築することが一つの評価基準となります。酪農学園大学の獣医学教育は、獣医学科から獣医学類への変遷を経て、その長い歴史の中で他大学には無い多くの実績を積み重ねてきました。これらを基礎として、将来も社会から求められる、唯一無二の大学であり続けるために教育の国際化を標榜し、それに必要な教育システムとしてEAEVEの評価基準をまずはクリアして行く所存です。本教育システムの実施にあたっては、同窓生の皆様にもご支援いただくことが多々あろうかと存じます。引き続き、ご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

獣医学科および獣医学類同窓生諸氏のご健勝を、獣医学類教員一同、心よりご祈念申し上げます。



2019年度に実施されたEAEVEの予備審査（説明者：杉浦先生）

■獣医保健看護学類「学類の近況」

同窓生の皆さまにおかれましては、益々ご活躍のこと
お喜び申し上げます。日頃、獣医保健看護学類の教育
及び研究活動にご協力いただき感謝申し上げます。申
し遅れましたが私は、2020年4月1日より獣医保健看
護学類長を北澤多喜雄先生から引き継ぎました菅野美
樹夫と申します。学類では、2018年度より生産動物看
護研究室を立ち上げ、主に動物栄養管理学、動物飼養
管理学、生産動物臨床学概論の講義を担当しています。

さて、ご存知の通り本学では、日々発展していく獣
医臨床の現場でチーム獣医療を担うことが
できる高い知識と技術を持った動物看護師
を育成することを目標に2011年4月に獣医
学群に獣医保健看護学類が新設されました。
2020年3月には58名（6期生）の卒業生を
輩出しました。主な就職先は、小動物病院等
（41%）、動物関連企業（12%）、生産動物関
連（7%）でした。その他に公務員、大学院
進学、海外留学など様々な業種に巣立ってい
きました。そして2020年4月1日には、獣
医保健看護学類10期生となる新入生（68名）
を受け入れることができました。一つの節目
の年となっています。

2020年の大きな話題の一つとして郡山先
生が、2019年9月から2020年8月までの
1年間、米国のパデュー大学へ留学されたこ
とです。本学とパデュー大学は、2019年1
月に学術交流協定が結ばれ、締結後第一号と
なる長期留学を果たすことができました。郡
山先生は、世界中の野生動物の行動、生態を
観察・調査する研究者ですので、大きな成果
を持って帰国されたことと思います。その成
果は、看護学類だけでなく学園全体に広げて
いただきたいと思います。

次に、何と言っても新型コロナウイルス感
染症防止対策です。講義・実習等は、対面授
業から遠隔授業に一部変わりました。また学

獣医保健看護学類長 菅野美樹夫

生は、授業への出席や各種手続き等やむを得ずの場合
を除き原則として、大学内への入構が大きく制限され
ています。学生にとっては、不自由を感じていること
と思います。しかしこれも、学生の健康を守るための
手段であり、やむを得ないことであります。学生にとっ
てはもう少し我慢が続くものと思われます。

最後になりますが、同窓生の皆さまにおかれまして
も健康に留意され、ご活躍されますことをご祈念申し
上げます。



新入りの学類犬男の子の“しちりん”です



女子学生が2級牛削蹄師資格試験にチャレンジ！

新型コロナウイルス禍での学生教育の現状

教育センター長 小糸健太郎

同窓会の皆様におかれましては、日頃より、教育センターの運営等にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。また、新型コロナウイルスにより甚大な影響を受けておられる方々に、心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスが広がったことにより、本学においても例外なく、学生にとっては、大学生活および日常生活、学生の学習方法、場合によっては経済状況にまで影響が出ています。非常に残念なことに、2019年度卒業式・2020年度入学式が中止となり、2020年度の新学期の講義開始を3週間ほど遅らせて開始しました。新学期開始当初の5月中は、オンライン授業のみとしました。6月以降は、座学の講義はオンライン授業が中心で、対面方式の講義（面接授業）は、実験・実習・ゼミナールおよび卒業論文などの学生の研究活動を優先して行いました。後学期は、実験・実習・ゼミナールおよび卒業論文に加えて資格に関わる科目など効果的で必要となる一部の科目について対面方式で、それ以外はオンライン授業で開講しております。部活・サークル活動を4月より活動禁止としておりましたが、前学期の試験が終了したのちの8月中旬より、教育センター学生支援課による申請及び許可制で、活動を再開しております。

教育活動においては、オンライン授業を用いた新たな教育および学生指導の方法に対応するため、教職員全体で連携しながら、工夫をし、授業への準備を進めてまいりました。また、対面方式の講義については、教育センター教務課の申請及び許可制により管理し、各教室の入口に消毒液を準備し、換気をするなど、可能な限りの感染拡大防止策を行い、実施しております。しかし、残念ながら、夏休みの学外農場実習（委託実習）は、中止になりました。

教育センター教務課は、オンライン授業に対応するための学生と教員のサポート、さらには通常の対面方式の講義においての対応により、学生の安全を第一にしつつ、

本学の特色ある教育ができるよう日々工夫をしております。また、2021年度よりカリキュラム改定を予定しており、アフターコロナにおいても、さらなる教育の充実を目指します。教職課程室では、学生の教育実習において、学生と受け入れ先の調整など、学生の教職免許のためのサポートをしております。共通教育開発室にある学習支援室ではweb会議システムを利用したオンラインにより学生の英語と数学の学習支援をしております。

教育センター学生支援課では、奨学金および従来からある本学の授業料減免制度の手続き業務のほか、この度の新型コロナウイルスに関連して家計が急変した学生への授業料減免の制度を創設するなど、学生生活の面でもサポートをしております。医務室では、新型コロナウイルス専用のフリーダイヤルも準備し、学生の健康面でのサポートをしております。学生相談室においては、学生のメンタル面でのサポートをしております。

今後も、教育センターは、学生の教育、支援に関して教職員一丸となって学生サービスの充実に取り組んでいきます。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



教育センターが入る学生サービスセンター

2020年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

2020年5月に予定されていた酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から延期になり2020年11月理事、代議員、監事の下承を得て書面表決で行いました（議決は理事・代議員34名による）。

議案第1号2019年度事業報告並びに収支決算、監査結果について。議案第2号2020年度事業計画並びに収支予算について。書面表決の結果はすべての議案で過半数の賛成により可決されました。新型コロナウイルスの影響で事業が中止や延期になっているものもありますが状況がよくなり活動が始まれば執行するなど盛り込まれました。

大学合同周年記念同期会開催予定

2020年度大学合同周年記念同期会は7月4日（土）に予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から翌年に延期されました。そのため2021年度大学合同記念同期会は2020年と2021年に周年を迎える同期が集まり2021年7月3日（土）に開催を予定しています。

次回ご案内する学科・期は以下の通りです
対象の皆様には5月初旬頃文書を郵送予定です

- 酪農学科【7、8、17、18、27、28、37、38、47、48期】
- 農業経済学科【6、7、16、17、26、27、36、37、46、47期】
- 食品科学科【9、10、19、20期】
- 食品流通学科【13、14期】
- 経営環境学科【9期】 地域環境学科【9、10期】
- 環境マネジメント学科【2、3期】
- 生命環境学科【2、3期】



大学周年記念同期会集合写真（2019年）

第29回ホームカミングデー開催予定

- 日時** 2021年7月3日（土）
- 会場** 黒澤記念講堂（予定）
- 内容** 記念礼拝（物故者追悼含む）
記念講演 講師未定

物故者 2019年4月から2020年3月

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

楠 茂（酪農・1期）	水野 正一（酪農・1期）
斎藤 隆則（酪農・2期）	山本 末吉（酪農・2期）
河瀬 英彦（酪農・4期）	松永 雅延（酪農・7期）
西島 誠治（酪農・8期）	高木 英夫（酪農・14期）
佐藤 明夫（農経・12期）	富樫 英奨（農経・47期）
宮本 宣明（獣医・1期）	阿部 達夫（獣医・5期）
竹内 建悟（獣医・7期）	三井 純（獣医・16期）
太田 耕司（獣医・19期）	岡本 輝久（獣医・19期）
花木 善弘（獣医・23期）	浅野 正慎（獣医・32期）
平山 将貴（獣医・46期）	佐藤 啓太（経環・1期）

敬称省略

会計報告 2019年度決算および2020年度予算について下記のとおり承された

収入 (単位:円)

項目	2020年度予算	2019年度決算	2019年度予算	備考
前年度繰越金	11,537,991	12,490,596	12,490,596	
新同窓会費	28,500,000	27,210,000	27,210,000	30,000円×633名 60,000円×137名（獣医）
同窓会費	0	270,000	60,000	15,000円×18名
預金利息	5,000	4,824	5,000	
助成金	10,000	10,000	10,000	同窓会より
ホームカミングデー分担金	200,000	130,000	200,000	酪農学園・関係団体より
獣医同窓会費返還預り金	0	90,000	0	3名
雑収入	0	0	0	
合計	40,252,991	40,205,420	39,975,596	

支出

項目	2020年度予算	2019年度決算	2019年度予算	備考
校友会事業費	12,500,000	9,388,673	12,482,000	
入学式関係費	1,400,000	1,213,720	1,400,000	バスケース、案内文書
卒業式関係費	7,600,000	5,481,651	7,582,000	記念品、送付料他
在学生関係費	1,000,000	938,640	1,000,000	暗幕、白樺祭助成金他
同窓会関係費	300,000	328,320	300,000	記念品作製
ホームカミングデー関係費	300,000	157,250	300,000	ポスター、謝礼金他
会報関係費	700,000	649,000	700,000	印刷代
周年記念同期会 退職記念祝賀会助成金	1,200,000	620,092	1,200,000	印刷代、助成金他
同窓会支部活動助成費	7,044,000	7,315,000	7,315,000	通信・活動費助成他
獣医同窓会活動費	4,161,000	3,904,500	3,904,500	137名
代行徴収業務委託手数料	1,425,000	1,374,750	1,363,500	手数料5%（酪農学園）
同窓会費返還金	0	1,725,000	0	退学者71名分 (25,000円66名、15,000円5名)
獣医同窓会返還金	0	165,000	0	退学者3名分
校友会運営費	3,850,200	3,794,506	3,850,200	
会議費	100,000	70,920	100,000	理事・代議員会他
同窓会負担金	640,200	640,200	640,200	同窓会
人件費	2,700,000	2,715,200	2,700,000	事務局長手当て含む
通信費	60,000	39,557	60,000	電話・郵送料
旅費交通費	60,000	51,920	60,000	理事・代議員会他
福利厚生費	10,000	19,481	10,000	除湿器
事務用品費	150,000	140,209	150,000	コピー、トナー代他
消耗品費	50,000	47,363	50,000	マットリース代他
雑費	80,000	69,656	80,000	振込手数料
雑支出	1,000,000	1,000,000	1,000,000	基金へ（同窓生会館施設管理費）
小計(a)	29,980,200	28,667,429	29,915,200	
予備費	0	0	10,060,396	
当期余剰金	10,272,791	11,537,991	0	
小計(b)	10,272,791	11,537,991	10,060,396	
合計(a+b)	40,252,991	40,205,420	39,975,596	

(単位:円)

基金	金額
卒業記念事業費（準会員積立金）	54,460,000
周年事業費	17,342,841
同窓生会館施設管理費	1,000,000